

日彫会報

公益社団法人
日本彫刻会

事務所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジョン・ド・諏訪202号室 TEL 03(3209)1861 FAX 03(3232)0557
<http://www.niccho.com/> email: webmaster@niccho.com

公益社団法人として、初の日彫展に向けて



昨年の第40回記念日彫展 表彰式及びオープニングパーティー (2010.6.23)

— 晴れやかな新入選の皆さん —

公益社団法人として、初の日彫展に向けて

理事長 能島 征二



平成二十三年三月十一日（金）、日本は未だ経験したことがない国難ともいえる東日本震災に見舞われました。被災された方々、大変な被害を受けられたであろう東北・北関東在住の会員の皆様には、衷心よりお見舞い申し上げます。

既に各方面にお知らせ致しましたように、本会は平成二十二年十一月から、公益社団法人として新たな歩みを始めております。我国の芸術文化の更なる向上を目指し、会員相互に彫刻制作・研究の深化を図りながら、展覧会をはじめとした諸事業をより活発に展開していく所存です。皆様方のご支援、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

さて、公益社団法人への移行後、初の日彫展開催が間近に迫っております。今回の展覧会は、未

曾有の大災害によって、多くの方々が困難と向き

合っている中での開催となります。三月十一日より既に一カ月が過ぎましたが、地震、津波の惨禍を茫然と見つめるばかりであり、またそれに併発された原子力発電所の大惨事など、まだ安心のできる状況には遠いと感じます。会場の国立新美術館においても、節電のため展覧会開催中にもかかわらず閉館を余儀なくされるといったことも現実

に起きております。このような現況の中、日彫展としてもどのような対応が必要か、十分な検討が求められます。

例えば、照明の工夫による節電の試みや、搬入・搬出での運搬の一層の合理化などは当然のこととして考えなければなりません。また、日本彫刻会として、被災された方々への復興支援に臨むべく、義援金の呼びかけなど、展覧会を通して取り組んでいく所存です。

多方面において様々な活動が自粛されている中ではありますが、少しずつ復興の動きは形となっています。その取り組みの中で文化的活動が切り離されてはなりません。私も彫刻家に何ができるか、会員・会友の皆様と真摯に考えていきたい

と思っております。

日彫展は多様な現代の彫刻シーンの中でも、具象彫刻、とりわけ人体の表現に主眼を置く彫刻展であります。日本各地からの出品者は、それぞれに素材、形態、量感・空間表現のあり方など、彫刻芸術の真髄を求めて日々研鑽を積んでおり、会場では見ごたえのある作品群が陳列されます。

多難なこの時期だからこそ、日彫会は今まで培ってきた人知を結集し、彫刻芸術への強い思いを披瀝した、より充実した展覧会を開催する意義があるのではないでしょうか。正会員・会友の皆様にはどうぞご理解、ご協力下さいますようお願い致します。

近年は、公募による若手作家等の作品において、新しい具象表現への多様なアプローチが見られ、本会の次代への息吹が強く感じられるところです。ベテランの伝統に根ざした堅実な具象表現との対比も見どころとなります。皆様におかれましては、ぜひ第四十一回日彫展にお越しいただき、ご高覧の上、忌憚のないご批評・ご叱声を頂ければ幸甚に存じます。

第41回日彫展

◆ 展覧会企画について

第41回展では、前回記念展で好評でした展覧会初日の「彫刻研究会」と、恒例となった「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」そして「ギャラリートーク」を実施します。

◆ 彫刻研究会

「彫刻研究会」では、日彫賞などの受賞者を中心に若手作家と審査員による作品批評や研究・解説を行います。昨年度は、本会正会員・会友のみならず一般鑑賞者にも多数ご参加いただき、作家の研究会という枠に留まることなく、彫刻芸術を広く知っていただく良い機会となりました。今年度も同様の内容で、作品を前にしての作家間の活発な意見交換により、さらなる彫刻への理解、そして制作への励みとなればと考えています。今回の開催日時は、展覧会初日の6月22日(水)午後1時から午後2時半を予定しています。参加を希望される方は日彫展会場入り口にお集まり下さい。

◆ 触れる彫刻鑑賞プロジェクト

本会の展覧会企画としては最も歴史のあるものの一つに「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」があります。この企画は視覚に障がいのある方に彫刻を

手で触れて鑑賞していただく企画です。内容としては会報でも度々ご報告していますが、盲学校や視覚特別支援学校の児童・生徒が鑑賞する「鑑賞教室」と、成人の視覚に障がいのある方に鑑賞していただく「タッチツアー」とがあります。本年度の「鑑賞教室」は、都立久我山青光学園(旧久我山盲学校)、都立葛飾盲学校、筑波大学附属視覚特別支援学校の皆さんが参加する予定です。昨年度は、数年前に久我山盲学校の児童として参加してくれた子が、今度は筑波大学附属特別支援学校の高等部の生徒として参加、嬉しい再会を果たしました。

成人の視覚障がいのある方の鑑賞は、事前にお申し出ただけであればいつでも「タッチツアー」にご参加いただけます。毎年、作家と鑑賞者と盲導犬が作品を前に語り合うといったほのぼのとした様子が見られ、本会の風物詩ともなっています。

◆ ギャラリートーク

毎日開催している企画としては、「ギャラリートーク」があり、毎回多数の方に参加いただいています。彫刻の見方や制作の苦労話など作家ならではのトークが人気ようです。また、作家側にとっては新鮮な感想や思わぬ質問があり、これも楽しみなところです。

※初日と最終日を除いて毎日行います。



前回「日彫展」彫刻研究会

第41回日彫展開催要項

主催 第41回日彫展
 会場 公益社団法人 日本彫刻会
 国立新美術館 3階展示室3A
 会期 平成23年6月22日(水)～7月4日(月)
 午前10時～午後6時(予定)
 (入場5時30分まで)

※ 初日 午前10時 開会
 休館日 6月28日(火)
 最終日 入場午後2時まで午後3時閉会
 震災による節電の為、開館日時変更の可能性があります。ご来場の折にはホームページ等でご確認ください。

入場料 一般入場料 700円
 20名以上 一人400円
 学生入場料(中・高・大生) 400円
 20名以上 一人300円
 小学生入場料 一人100円
 日曜日入場無料(6月26日・7月3日)
 身体障がい者手帳をお持ちの方と付き添い2名まで入場無料
 70歳以上の方入場無料

搬入 国立新美術館
 地下1階日彫展受付(作品搬出入口)
 6月10日(金) 午前10時半～午後4時
 6月11日(土) 午前10時～午後2時
 業者搬入は6月10日(金)
 1人1点
 高さ 230cm 以内
 幅、奥行き各150cm 以内
 重量 1000kg 以内

規格数

高さ 230cm 以内
 幅、奥行き各150cm 以内
 重量 1000kg 以内

出品手数料 一般応募者 1万2千円
 (図録1冊贈呈)

鑑・審査 6月16日(木)
 入選発表 6月17日(金)
 午後5時日彫会ホームページにて発表

搬出 7月4日(月)
 午後3時半～午後6時半

選外搬出 7月5日(火) 午前10時～正午
 6月21日(火) 午前10時～午後2時

表彰式及びオープニングパーティー
 日時 6月22日(水) 午後5時～
 会場 ホテルオークラ東京 別館地下2階
 アスコットホール
 (港区虎ノ門2-10-4)

〈第41回日彫展・西望賞審査員〉
 美術評論家・東京都美術館長
 真室佳武 先生

第41回 日彫北陸展

会期 平成23年7月8日(金)

会場 石川県立美術館(金沢市出羽2-1)
 7月12日(火)

第41回 日彫東海展

会期 平成23年7月26日(火)

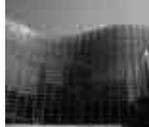
会場 愛知芸術文化センター愛知県美術館
 (名古屋市中区東桜1-13-2)
 7月31日(日)

41th Nicchouten Exhibition
 私達が彫刻に求めるもの
 6.22 MON - 7.4 TUE



国立新美術館 会場3F 展示室3A <http://www.nact.jp/>
 平成23年6月22日(水)～7月4日(月)
 午前10時～午後6時(予定) [入場: 午後5時30分まで]
 ※ 最終日は午後3時閉会 [入場: 午後2時まで]
 震災による節電等のため開館日時変更の可能性もあります。
 ご来場の折にはホームページ等でご確認ください。

休館日: 6月28日(火)
 入場料: 一般700円 [20名以上1人400円]
 中・高・大生 400円 [20名以上1人300円]
 小学生 100円
 入場料無料: 日曜日(6月26日・7月3日)
 ・身体障がい者手帳をお持ちの方と
 付き添い2名まで
 ・70歳以上の方



公募

搬入: 国立新美術館 地下1F 日彫展受付 [作品搬出入口]
 平成23年6月10日(金) 午前10時30分～午後4時
 6月11日(土) 午前10時～午後2時
 搬入点数: 1人1点/高さ2m30cm・幅、奥行き各1m50cm以内
 重量1,000kg以内
 出品料: 12,000円

公益社団法人 日本彫刻会
 〒104-0075 東京都新宿区高田馬場1-29-18 レジランド 諏訪202
 tel:03-3209-1894 fax:03-322-0527
<http://www.niccho.com/> webmaster@niccho.com

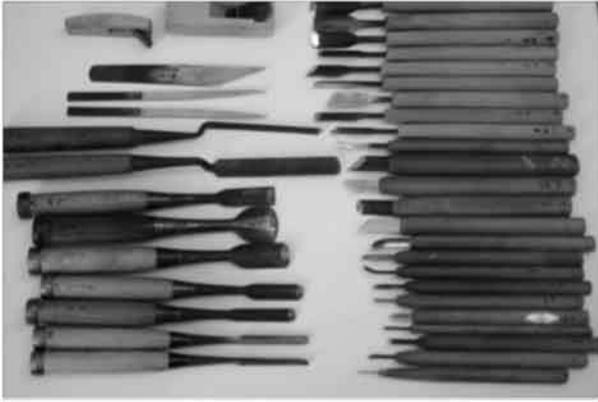
〈第41回 日彫会チラシ〉

- ・5月中旬以降、ホームページでもダウンロードできます
- ・ご入用の方は本会事務所までお知らせください

初めて彫刻展をみる方へ

— 木彫の制作 —

前回は塑造の制作でしたが、今回は木彫の制作を紹介します。木彫といえはまず仏像や欄間などを思い浮かべられると思います。基本的な制作方法はこれらと同じです。しかし、展覧会では「作家の表現活動として木を使っている」といえますので作家それぞれの個性を生かすため独特の技法や表現方法があります。ここではあくまで一般的なお話をいたします。



木の種類

木彫制作には樟(クス)がよく使われます。程よい硬さで彫りやすく鑿(ノミ)痕がはつきりと出るので多くの作家が用いています。作品から樟脳の匂いがします。

その他に用いられるのは檜(ヒノキ)、桂(カツラ)、樺(ケヤキ)、朴(ホウ)、銀杏(イチョウ)、桐(キリ)などです。

松や杉は手に入りやすいのですが、年輪の軟らかい部分(春材・白っぽくみえるところ)と硬い部分(秋材・色の濃いところ)の差が大きく木目にそって割れやすいので彫りにくい材といえます。

仏像では白檀や黒檀など硬くて緻密な細工が出来るものを使いますが、大きな材がなく高価ですから展覧会用の大作には用いられることはありません。

造り方・木取り

木彫の造り方には大きな木の塊から像を彫りだす一木造りと部分をつなぎ合わせて造る寄せ木造りがあります。一木造りでは本来木が持っている生命感が出やすいと思います。寄せ木造りでは材料の無駄が省け、自由な構成が可能となります。作品の表現効果を狙って意図的にモザイクのような寄せ木にする場合もあります。作品によって造り方や木取り(丸太から部材を取る)の方法も変わってきます。



あなたも日彫展へ出品しませんか？

公益社団法人「日本彫刻会」(通称日彫会)では、毎年日彫展を企画開催しております。

日彫会は昭和22年の発足から63年の歴史を刻んでおります。本会は具象彫刻を主流として探求しており、先輩諸氏の理念・理論・技法を伝承し積み重ね、伝統をつくつてまいりました。さらにこれからの発展を考えると、次の世代の人たちにぜひ引き継いでいただきたいと考えています。

そこで、**学生の方、日々彫刻の制作・研究の場を求めておられる方々**、ぜひ日彫展に出品し、本会に参加してみませんか。老若男女を問わずどなたでもご応募いただけます。

左のような賞もあります。

◆日彫賞 3名以内 正会員・会友

◆優秀賞 5名以内 正会員・会友

◆新人賞 5名以内 入選者

賞状と記念品

◆西望賞 全陳列作品を対象として一点

賞状と賞金

是非、多くの方々のご応募をお待ちしています。

制作の進め方

作品の構想を練ってエスキース（雛型）を粘土などで造りそれをもとに拡大する方法と、木材に直接デッサンを入れて彫り進める方法があります。木彫は彫りすぎてしまうと元に戻せなくなり、ますから本来前者の方法をとるのですが、作家の感性や感覚を重視する場合は後者の方法をとります。

粗取り

おおよその形を出すために、ノコギリ（チェーンソー）で余分な部分を切り落とします。ノコギリで落とせない部分は叩きノミと木槌（ゲンノウ）を用いる場合もある）で大きくハツリます。



粗彫り・中づくり

最初は大きめの叩きノミで彫り進めます。全体の形が出たらノミを中くらいのものに変え細部に移ります。大胆なタッチで仕上げる作家はここで彫るのを終えます。



小づくり

繊細なタッチの作品は小づくりノミ（突きノミ）や彫刻刀などで更に彫り進めます。様々な形のノミや彫刻刀があり作品の効果を考えて使い分けます。



仕上げ

それぞれの個性で仕上げを行います。ノミ痕を生かすことが重要ですがカンナ、木ヤスリ、サンドペーパーなどを用いることもあります。逆にチェーンソーの荒々しいタッチやひび割れ（干割れ）、木の割れ肌などを意図的に残すこともあります。

着色

白木の作品も美しいのですが作品としては弱く見えます。また木目が強すぎる場合なども形が見づらく着色が大切になってきます。

着色も作家によって千差万別です。漆、膠に顔料、油絵の具、アクリル絵の具など様々です。パーナーで焼き目を付けたたり、金箔などを貼ったりする場合もあります。それぞれ秘伝の技があるようです。木の素材感を生かすことが大事です。

木彫作品は見るだけではなく、是非手触りや匂いなども感じながら鑑賞してみてください。そこに込められた作者の思いが五感を通して感じただけのことでしょう。

（会員 石田陽介）

東京彫刻散歩Ⅲ

《ネレイス(海の精)》 ブロンズ

エミリオ・グレコ (Emilio Greco 1913~1995)

設置場所 檜町公園

(東京都港区赤坂9丁目7番9号)



H140cm × W90cm × D60cm (港区所蔵)

《散歩のご案内》

～ 檜町公園 ～

東京ミッドタウンの東側にあり、その昔、檜が多いことから「檜屋敷」と異名をとった萩藩・毛利家の麻布下屋敷の庭園跡です。

～ 檜町公園までの行き方～

地下鉄

- ・都営大江戸線、日比谷線「六本木駅」より徒歩約3分
- ・千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩約10分
- ・南北線「六本木一丁目駅」1番出口より徒歩約13分

2007年1月、六本木に国立新美術館が開館してから早いもので5年目となります。本会は、国立新美術館が開館した年から昨年の第40回記念展まで、六本木の地にて4回の展覧会を重ねてまいりました。国立新美術館における5回目の展覧会となる本年は一つの区切りとなる年です。そこで、今回の東京彫刻散歩では六本木周辺に設置されている彫刻作品に焦点を当ててみたいと思います。

現在、六本木周辺には国立新美術館をはじめ、森美術館やサントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHTなど、美術館やアートスペースが数多くあります。美術公募展、現代美術、古美術、デザインなど、それぞれの施設が得意分野を持ち、複合的なアート環境を築く都市開発がなされている街と言えるでしょう。

今回取り上げる作品は、サントリー美術館や21_21 DESIGN SIGHTをその敷地に有する東京ミッドタウンに隣接した檜町公園に見ることができます。近代彫刻を代表する彫刻家のひとりであるエミリオ・グレコ作《ネレイス(海の精)》です。

グレコは1913年、シチリア島のカタリーニャに生まれ、墓碑を制作する石工の工房で彫刻の基礎を学びました。同年の生まれであるヴェナンツォ・クロチエッティやペリクレ・ファッツィーニらとともに、近代におけるイタリア彫刻の黄金期を担ったひとりとして知られます。浴女や踊り子の像などを多く手掛けたグレコにとって、女性の身体の美の表現、官能性は主たるテーマでありました。それでは、グレコはどのようにしてこの

テーマに迫っていったのでしょうか。その答えの一端はグレコの語る言葉に見ることが出来ます。

「私はいつも、受取ったものをろかして、現実の持つリズムを見つけます。それから、造形に高めて行く。その意味で、作者の仕事は総合的なものですが、その総合の過程が、気ままなものであってはいけません。現実に対する感動には、謙虚でありたい」

グレコにとって、誇張や強調を加えられた身体の表現は単なるフォルムの変形ではありません。モデルという現実の存在が与えてくれたインスピレーションを、自身の感動をもって、高次のものとしてかたちに表すことで独自のデフォルマシオンとなるのです。

《ネレイス》の周囲を回りながら鑑賞してみれば、正面に立った時とは大きく変わる印象を受けることになるのではないのでしょうか。作品を側面から見れば、正面にて感じられた迫ってくるようなヴォリュームとは懸け隔たり、奥行きを知性的に圧縮したような形態に気づくことができます。そうしてまた正面に戻れば、改めてこの作品の存在感がどこからきているものなのかを感じることが出来るでしょう。

ミッドタウンの再開発とともに改めて整備され、新たに街と調和がとられた檜町公園。この地に設置された《ネレイス》は、「芸術というものが、社会の中で、人々の生活の中で立派に役割を果たしている。私はそういうふんいきを考えています」と語ったグレコの意思を包含している作品であると言えるのではないのでしょうか。

平成23年度 日本彫刻会総会

第82回通常総会報告

日時 平成23年1月24(月) 午後3時

場所 日展会館

出席者 77名 委任状 184名

正会員 321名 定款17条の定めるところによりにより総会成立。

議事

第一号議案 平成22年度庶務・事業報告

承認の件

第二号議案 平成22年度決算報告承認の件

及び監査報告

第三号議案 平成23年度事業計画案承認の件

第四号議案 平成23年度予算案承認の件

第五号議案 第41回日彫展開催に関する件

第六号議案 会員状況承認の件

第七号議案 その他の件

定款及び施行細則等の一部変更の件
全議案とも異議なく承認されました。

報告事項

第41回日彫展 審査員・会友推挙選考委員の発表、日彫会選抜展(三越展)会期変更(5月25日(水)～31日(火))他2件の報告がありました。

慶事

正会員 **横山豊介 先生**
第42回日展 文部科学大臣賞受賞
平成22年10月

2012年、「第42回日彫展」

「展覧会会場移転のお知らせ」

第37回日彫展より5年間、六本木の国立新美術館を会場としてきました日彫展は、2012年第42回展よりリニューアルされる東京都美術館で開催されることとなりました。

国立新美術館では5年に1度の使用見直しによる会期の抽選があります。日彫展は、2012年以降5年間、2月開催の優先使用承認を受けておりましたが、同時期に募集のありましたリニューアル後の東京都美術館から4月の使用承認も受けることが出来ました。国立新美術館の展示室がやや手狭であったことも考え、理事会・委員会での検討の結果、2012年第42回日彫展からは東京都美術館での開催と決定いたしました。

日彫展にとってはなじみのある、しかしながら新たな東京都美術館での開催となります。都美術館では「公募団体ベストセレクション 美術」展(仮称)といった企画など、意欲的な取り組みも予定されています。よりステップアップした上野での新たな日彫展に生まれ変わる好機となるのではないのでしょうか。

第41回日彫展図録 掲載広告募集

現在、図録への広告掲載を広く募っております。会員の皆様のお身近に掲載希望の会社、各種学校等がございましたら、事務所までご連絡下さいますようお願い致します。(係)

訃報

左記の方が長逝されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

正会員 難波 孫次郎 先生
平成22年11月

編集後記

◆このたびの東日本大震災により被災された方々へ謹んでお見舞い申し上げます。理事長の言葉にありますように「公益社団法人として、初の日彫展に向けて」より高い意識を持つことが問われているように感じました。

◆第41回日彫展においても触れる彫刻鑑賞やギャラリートークをはじめ、前回展にて好評を頂きました彫刻研究会も継続して行つてまいります。「アートライブラリー」は展覧会の開催に合わせてお配りできるように着々と進捗しております。

◆展覧会会場移転のお知らせにて記載いたしました、国立新美術館での日彫展は今回が最後となります。これに合わせて今回の「東京彫刻散歩」では国立新美術館にほど近い檜町公園の作品をとり上げました。美術館にお越しの際に足をお運びいただければ幸いです。

◆震災による大変な状況はまだ続いておりますが、第41回日彫展にて皆様にお会いできますことを楽しみにしております。(M)

編集委員

加山 総子・一 鍛田 徹・堀内 秀雄
前芝 武史・宮坂 慎司・吉岡 徹

日彫会報 No.67

平成23年4月20日発行